最近の本学の取組等について
2026.9　～　2026.11

＜目次＞

活動報告・・・・・・P.2～P.18

教員等の受賞・・・P.19～P.23

学生の受賞・・・・ P.24～P.28

研究成果・・・・・・P.29

活動報告

１．東京窯業株式会社とネーミングライツ事業実施契約を締結

本学は、教育及び研究環境の充実のための財源確保を目的に、ネーミングライツを導入しています。
この度、東京窯業株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：牛込伸隆氏）とネーミングライツ事業実施契約を締結しました。

対象施設へのサイン設置が完了したことを受け、東京窯業株式会社 代表取締役会長の牛込進氏と本学の小畑誠学長が対談し、東京窯業株式会社の事業内容をはじめ、本学におけるリカレント教育や生成 AI への対応などに関して意見交換を行いました。

ネーミングライツ・パートナー：東京窯業株式会社
対象施設：52・53 号館　5212 講義室
愛　　称：TYK Room
契約期間：2026 年 6 月 1 日～2029 年 5 月 31 日



対談の様子



TYK Room にて記念撮影

２．徳倉建設株式会社とネーミングライツ事業実施契約を締結

徳倉建設株式会社（本社：愛知県名古屋市中区、代表取締役社長：徳倉克己氏）とネーミングライツ事業実施契約を締結しました。

本契約により、ネーミングライツの対象となる「24 号館 2 階 2421 講義室」は、新たに「T－Room」の愛称で運用されます。対象施設に設置したサインのデザインは、石松丈佳教授の研究室に所属する学生が手掛けました。

サインの設置完了に合わせて、徳倉建設株式会社代表取締役社長の徳倉克己氏と小畑誠学長が対談を行いました。対談には本学卒業生である同社社員も同席し、同社の事業内容や本学学生の就職状況等について意見を交わしました。

対談後には対象施設を訪れ、サインのデザインを担当した学生が、デザインの意図などについて説明しました。

ネーミングライツ・パートナー：徳倉建設株式会社
対象施設：24 号館 2 階 2421 講義室
愛　　称：T-Room
契約期間：2026 年 9 月 1 日～2031 年 8 月 31 日



対談の様子



T-Room にて記念撮影



サインのデザインを担当した石松研究室の学生

３．第 16 回東海・北陸地区大学輸出管理担当者ネットワーク会議を開催

8 月 24 日、本学において「第 16 回東海・北陸地区大学輸出管理担当者ネットワーク会議」を開催しました。
本会議は、本学、名古屋大学及び三重大学が幹事校となって開催したもので、東海・北陸地区の国公私立 20 大学から 48 名が参加したほか、経済産業省及び中部経済産業局の関係者にもご出席いただきました。

会議では、本学の柿本理事による開会挨拶の後、大阪大学国際連携研究リスク統括室教授・安全保障輸出管理マネージャーの金美善氏を講師に迎え、「技術提供に関する安全保障輸出管理のポイント―該非判定とキャッチオール規制の演習を中心に―」と題して講演が行われました。講演では、リスト規制及びキャッチオール規制の基礎や該非判定のプロセスについて、ケーススタディを交えながら解説があり、日々の輸出管理業務に直結する実践的で有意義な内容となりました。

また、参加者同士の交流を通じて、大学や職位の垣根を越え、各大学における輸出管理の取組や運用状況について共有するとともに、地域の大学間ネットワークを広げる貴重な機会となりました。

最後に、東海国立大学機構名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部リサーチ・アドミニストレーター・輸出管理マネージャーの石川綾子氏による閉会挨拶が行われ、盛会のうちに会議を終了しました。





４．第 12 期女性技術者リーダー養成塾を開催

9 月 3 日から 11 月 6 日まで全 5 回の日程で「第 12 期女性技術者リーダー養成塾」を開催しました。本養成塾は、製造業に勤めている女性技術者のための講座で、女性技術者がリーダーとして長く活躍し続けるために必要なスキルを学び、長期的視点でキャリアをデザインする機会を提供することを目的としており、今年度は 20 社から 21 名の女性技術者が参加しました。

キャリア形成をはじめ、プロジェクト・マネジメント、リーダーシップ、ものづくりの安全、コミュニケーションスキル等、技術者として組織やチームで業務を遂行する上で必要となる幅広いテーマを取り扱いました。講義では、自身のキャリアビジョンの形成、チームで成果を上げるための考え方、ヒューマンエラーへの対策、業務上の意思疎通等について学ぶとともに、グループワークや意見交換を通じて各テーマへの理解を深めました。



グループワークの様子



「リーダーシップ持論」発表の様子

５．課題発見型アイデアソン「Second UP!」を開催

9 月 4 日から 6 日までの 3 日間、本学産学官金連携機構は、本学起業部 NaSH（以下、NaSH）の運営により、東海圏の大学生を対象とした課題発見型アイデアソン「Second UP!」を、合宿形式で開催しました。

本イベントには、本学をはじめ、岐阜大学、名城大学、南山大学、名古屋国際工科専門職大学などから、28 名の学生が参加しました。また、名古屋工業大学と南山大学の包括連携協定締結後、両大学の学生が参加するアントレプレナーシップ教育に関する初のイベントとなりました。

今回は、「どのような人が、どのような課題を抱えているのか」を見いだすことに重点を置いたプログラムを実施しました。これまでのビジネスアイデアの創出を目的としたプログラムから一歩踏み込み、課題の根幹を追究し、発見するための実践の場となりました。

最終日には、7 チームが 3 日間にわたり発見した課題について発表を行いました。審査の結果、最優秀賞には、「重要文化財に住む人々の洗濯物に関しての課題」に着目したチームが選ばれました。



６．第 20 回工場長養成塾入塾式を開催

9 月 11 日、第 20 回工場長養成塾の入塾式を開催し、金融機関や企業の関係者を含む 107 名が参加しました。

工場長養成塾は、製造現場における課題を自ら発見し、考え、行動できる工場管理者の育成を目指す人材育成講座です。本学での生産管理・品質管理等に関するゼミや実習に加え、受講者の製造現場における改善活動の実践を通じて、製造業を担う人材の育成に取り組んでいます。今回の工場長養成塾には、26 社から 69 名が受講しています。

入塾式では、塾長の荒川雅裕教授が開講を宣言しました。小畑学長は、半年間の学びと交流を通じ、受講者が製造管理者、さらには将来の経営を担う人材として成長し、企業や地域の製造業の発展に貢献することへの期待を述べました。

続いて、中部経済産業局 地域振興・人材政策課長の村瀬摩佐子氏及び愛知県 経済産業局産業部産業振興課長の長谷部淳氏から、製造現場における人材育成と改善活動の重要性に触れた祝辞をいただきました。また、工場長養成塾プロジェクト推進リーダーで、株式会社豊田自動織機元副社長の森下洋司氏が受講者を激励しました。

その後、受講にあたってのガイダンス等を実施し、第 20 回工場長養成塾がスタートしました。受講者は講義、実習、製造現場での実践を通じて、現場の改善を担うための知識と実践力を身に付けていきます。



多くの参加者が集まった入塾式会場



開会の挨拶を行う小畑学長



祝辞を述べる村瀬氏



祝辞を述べる長谷部氏



受講者を激励する
森下ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ推進ﾘｰﾀﾞｰ

７．SRI International Roland Stephen 氏による視察

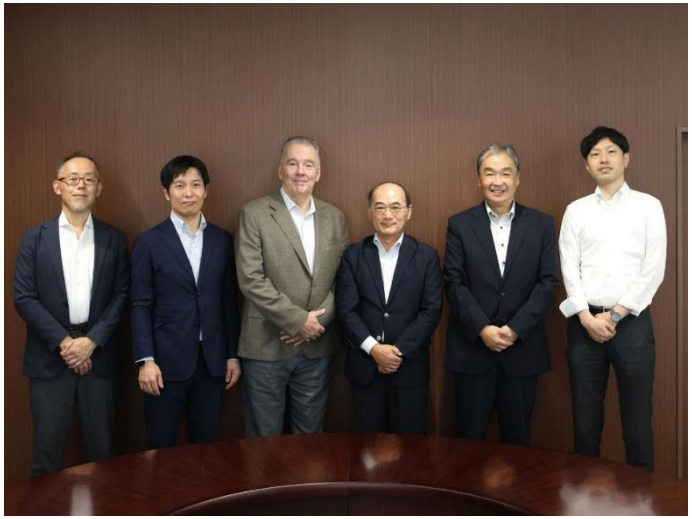
9 月 16 日、SRI International（以下、SRI）の Director である Roland Stephen 氏ら 3 名が本学を訪問しました。

SRI は、米国シリコンバレーに拠点を置く非営利の研究開発機関であり、幅広い分野の研究開発に加え、技術移転やスタートアップ創出、研究成果の事業化支援に取り組んできました。日本においても、長年にわたり企業や政府機関と協力し、研究開発やイノベーションの推進を支援しています。

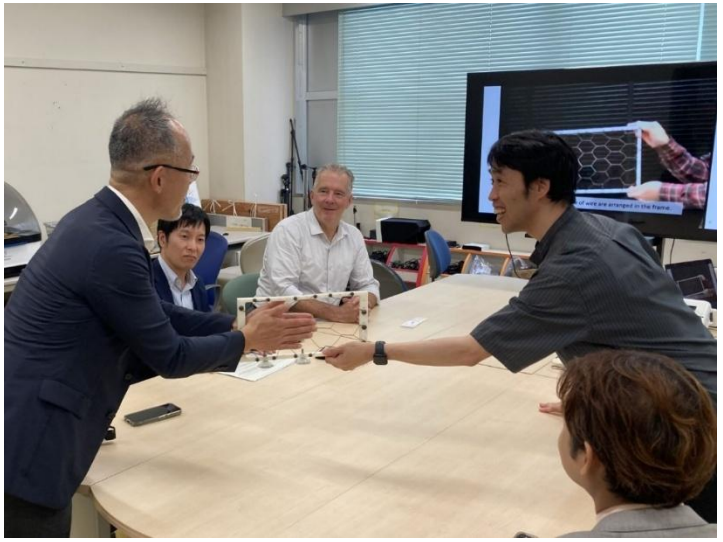
Stephen 氏らと小畑学長は、日本政府が推進するグローバル・スタートアップ・キャンパス（GSC）構想や、その先行的活動の一つである国際研究プログラム（以下、IRP）について懇談し、その中で SRI が日米で培ってきた経験を IRP の運営支援に生かす方針について説明がありました。社会課題や利用者のニーズを研究課題に結び付け、目標や成果の評価方法を明確にした上で、研究の進展に応じた助言や企業・実証現場との橋渡しを行うなど、社会実装を見据えた支援の在り方が紹介されました。

その後、学内の 4 つの研究室で各研究室の研究内容や特色ある技術について説明を受け、研究設備や実験の様子を見学しました。研究者との対話では、技術の可能性や社会での活用に向けた課題、今後の国際的な研究交流について意見を交わしました。

今回の訪問は、本学の研究への理解を深めていただくとともに、国際的な視点から研究成果の社会実装を考える機会となりました。



左から、SRI International の吉平氏、笠原氏、Stephen 氏、
本学 小畑学長、柿本理事、片山准教授



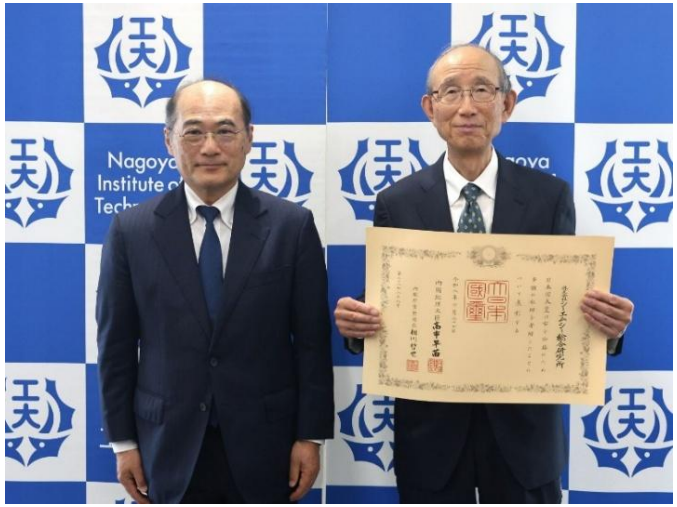
田中由浩教授の研究室で触覚研究の装置を体験する吉平氏

８．寄附者へ紺綬褒章の物件伝達

9 月 24 日、学長室において、株式会社 CMC 総合研究所代表取締役の元島栖二氏に対し、紺綬褒章の物件伝達を行いました。

紺綬褒章は、公益のために私財を寄附した個人又は団体に授与されるもので、株式会社 CMC 総合研究所からは、本学のさらなる発展を支援したいとのご意向のもと、女性活躍支援基金及び地球上で家に困る人々へのインスタントハウス基金等にご寄附を賜りました。

小畑学長は元島氏に紺綬褒章を伝達するとともに、本学の教育、研究及び社会貢献活動を支える貴重なご支援に対し、感謝の意を表しました。



９．2026 年度キャンパスミーティングを開催

　このミーティングは、学長、理事、副学長をはじめとする大学関係者７名と学生が自由に意見交換を行い、それを通じてより良い大学づくりを目指すことを目的として、毎年開催されています。
　当日は「授業・学習・研究」「学内設備等」「学生生活全般」をテーマに、約１時間半にわたり対話が行われました。
　対話後、学生からは「執行部の方々と直接話し合うことができる良い機会だった。」「去年の事例を聞いて、学生の意見がしっかりと反映されていることに驚いた。引き続きこのミーティングを続けて欲しい。」といった意見が寄せられました。
　一方で、今後の開催に向けた改善点についても意見が寄せられました。
　今回の学生との対話で得られた意見をもとに、より良い大学づくりを目指した運営が期待されています。

日時：9 月 25 日（金）14：00～15：30
場所：名古屋工業大学 NITech Hall　２階　ラーニング・コモンズ（EPSON STUDIO）

参加学生数：40 名



10. 第 3 回 DX チーム発表会を開催

10 月 1 日、業務変革推進室主催の「第 3 回 DX チーム発表会」を開催しました。当日は、学長をはじめとする大学の執行部を含む職員約 45 名が参加しました。

発表会では、DX チームで活動する若手職員 7 名が、AI を活用して取り組んだ業務改善の成果を紹介しました。普段使う言葉で指示することで Web アプリケーションの開発を支援する AI「Codex」などを活用し、奨学金情報検索アプリ、欠席連絡システム、落とし物管理アプリ、研究連携分析システム、学内規則検索アプリなどの開発に加え、これらの導入に伴う業務フローの整理・見直しについても説明しました。

各メンバーは、自身や周囲の業務で感じた課題や改善したい点を出発点として、AI の支援を受けながら自ら Web アプリケーションを開発し、業務の効率化や情報の一元化を進めました。

発表後には、多くの質問やさらなる改善に向けた意見が寄せられ、活発な意見交換が行われました。「時間を忘れるほど、各人のすばらしい発想を楽しませてもらった」「便利になりそうな着眼点ばかりで勉強になった」「自分の課でも活用したい」「若手職員に DX チームの活動を経験させることは、将来への投資として有効だと感じた」など、発表内容を評価する声が寄せられました。



DX チームのメンバーによる発表の様子



質疑応答での小畑学長と井門理事

11. 女子学生のためのテクノフェスタを開催

本学 OG による講演会や現役女子学生との座談会、学内ツアー、保護者説明会を実施しました。

日時：10 月 3 日（土）10：30～13：00
場所：名古屋工業大学 NITech Hall
対象者：高校 1～3 年生及び既卒者
内容：
・講演会
　タイトル：「工学、あなたと生きる道」
　講　　師：名古屋工業大学大学院工学研究科研究員　北川　珠美　氏
・座談会（学科毎）
・校内散策
・保護者向け説明会

参加者数：約 200 名



講演会中のパネルディスカッションの様子



現役女子学生との座談会の様子

12.　ARTFUL CAMPUS 学生向け特別講座「ロゴをデザインしよう」第 1 回を開催

10 月 6 日、名古屋工業大学 EPSON STUDIO（ラーニング・コモンズ）にて、特別講座《ロゴをデザインしよう》第 1 回「ガイダンス、デザイン概論」を開催しました。

本講座は、「ARTFUL CAMPUS」の一環として、愛知県立芸術大学との連携により実施する、本学学生を対象とする全 3 回の特別講座です。ビジュアルコミュニケーションデザインを専門とする愛知県立芸術大学の佐藤直樹教授を講師に迎え、「ARTFUL CAMPUS」のロゴデザイン制作に取り組みます。

当日は、約 30 名の学生が参加しました。講師による解説では、デザインの考え方や発想の方法、アイデアを具体的な形にするための技法について、ロゴマークの事例を交えながら紹介されました。

また、身近な題材を短時間で描く実践的なワークも行われました。参加者は実際に手を動かしながら、限られた時間の中で対象の特徴を捉え、表現することの面白さを体験しました。講義と実践を通じて、今後のロゴデザイン制作に向けた理解を深める機会となりました。

第 2 回では、制作したロゴデザインについて講師からアドバイスを受け、さらにブラッシュアップを進めます。最終回では、制作作品の講評会を行い、受講者による投票で「ARTFUL CAMPUS」のロゴを選定する予定です。



13. ゴムノイナキ株式会社の専務取締役らが学長を表敬訪問

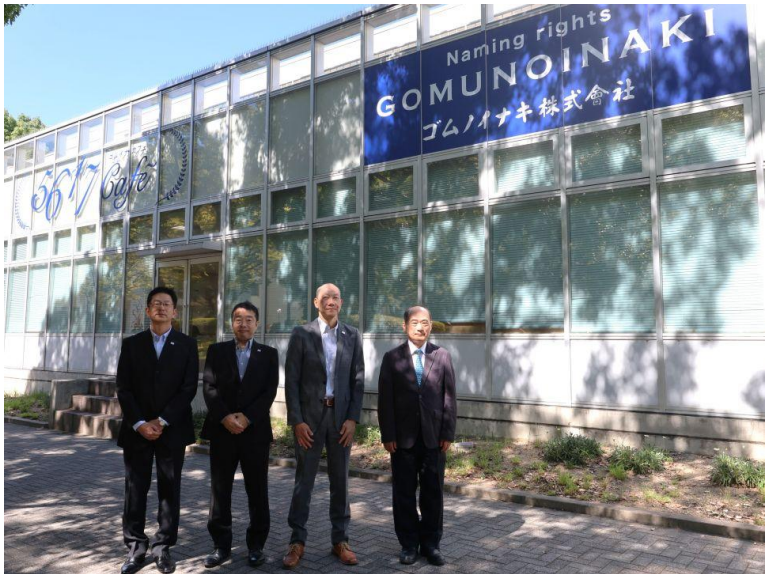
10 月 8 日、本学とネーミングライツ事業実施契約を締結しているゴムノイナキ株式会社の田中仁専務取締役、太田英貴管理部長、竹川啓次人事総務室長が、小畑学長を表敬訪問しました。

今回の訪問は、同社からネーミングライツ事業実施契約の延長の申し出があったことを受け、これまでの連携について意見を交わすとともに、今後の協力の可能性を検討する機会として行われたものです。同社は、本学大学会館 2 階のカフェテリア食堂のネーミングライツ・パートナーであり、同施設には「5617café（ゴムイナカフェ）」の愛称が付されています。

歓談では、これまでの連携に加え、同社の海外事業展開や、アジア地域における工業技術の高度化などについて意見を交わしました。



対談の様子



大学会館前にて記念撮影　左から竹川室長、太田部長、
田中専務取締役、小畑学長

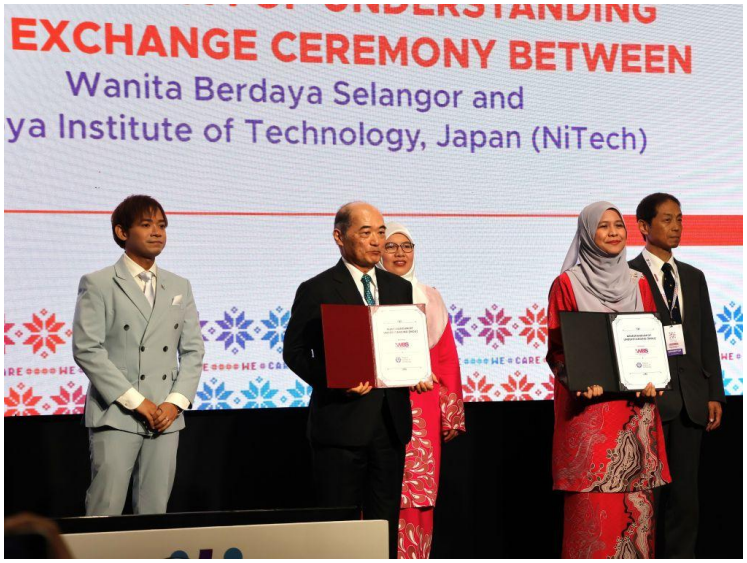
14. マレーシア・セランゴール州政府関連団体と連携協定を締結

10 月 15 日、マレーシア・クアラルンプールで開催された「Selangor International CARE EXPO 2026（SICE2026）」において、マレーシア・セランゴール州政府の関連団体である Wanita Berdaya Selangor（WBS）と連携協定（MOU）を締結しました。

本協定は、本学の工学分野の研究成果と、セランゴール州が抱える社会課題や地域ニーズを結び付け、共同研究、人材育成、研究成果の社会実装を通じて、社会課題の解決と新たなイノベーションの創出を目指すものです。高齢化社会への対応やヘルスケア・介護分野における技術活用をはじめ、本学の研究成果の海外展開、国際共同研究の推進、教育研究交流の拡大など、幅広い分野で連携を進めます。

また、SICE2026 では、森田良文教授が研究開発に取り組む、手指の力加減を測定し、加齢や脳卒中、認知機能低下に伴う変化の評価や訓練に活用できるデバイス「iWakka」を出展しました。会期中には、森田教授による iWakka の基調講演や、来場者向けの体験型デモンストレーションを実施しました。本学の展示ブースには 3 日間で 315 人以上が来場し、現地の行政機関、医療・介護関係者、企業などに研究成果を紹介するとともに、マレーシアにおける技術の活用可能性や現地のニーズについて意見交換を行いました。

さらに、現地の高齢者介護施設を訪問し、iWakka を活用した実証実験（PoC：概念実証）の実施可能性や、今後の協力体制について協議しました。これらの取り組みを通じて、現地のニーズを踏まえた技術の適用可能性を検討し、研究成果の国際的な社会実装に向けた連携のあり方を探りました。



締結式の様子



SICE2026 での本学展示ブース

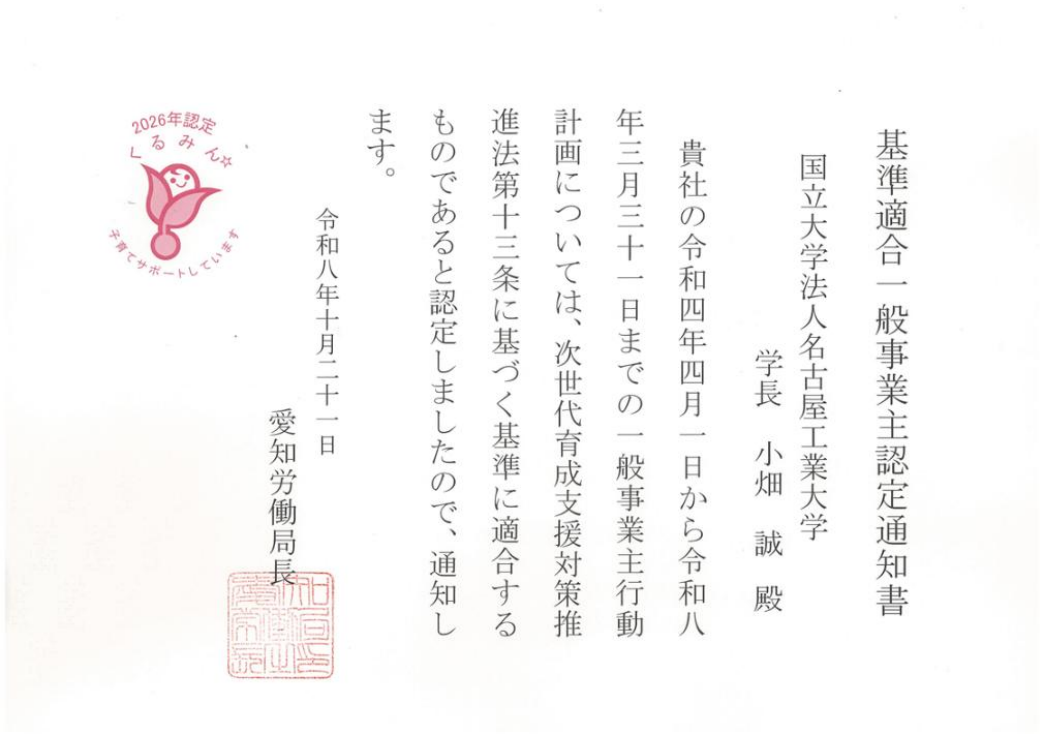
15. 「くるみん認定」を取得

10 月 21 日付けで、次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん認定」を取得しました。

「くるみん認定」は、一般事業主行動計画に定めた目標を達成し、仕事と子育ての両立支援に関する一定の基準を満たした企業・法人を、厚生労働大臣が「子育てサポート企業」として認定する制度です。

本学では、教職員が仕事と子育てを両立できる職場環境づくりを目指し、男性教職員を含めた育児休業の取得促進や、仕事と子育ての両立を支援するための取組を進めてきました。

今回の認定を一つの節目として、今後も教職員一人ひとりが仕事と子育てを両立しながら安心して働き、その能力を十分に発揮できるよう、働きやすい職場環境づくりに努めてまいります。



基準適合一般事業主認定通知書

国立大学法人名古屋工業大学
学長　小畑　誠　殿

貴社の令和四年四月一日から令和八年三月三十一日までの一般事業主行動計画については、次世代育成支援対策推進法第十三条に基づく基準に適合するものであると認定しましたので、通知します。

令和八年十月二十一日

愛知労働局長

16. 2026 年度留学生懇談会「NITech Global Campus Connect」を開催

10 月 30 日、大学会館 1 階 Sky Cafeteria にて、留学生懇談会「NITech Global Campus Connect」を開催しました。

本イベントは、昨年度に続き 2 回目の開催となり、教職員・学生あわせて 100 名を超える参加がありました。開会にあたり、小畑学長から、多様な背景を持つ人々との出会いを大切にしながら、本イベントをきっかけに新たなつながりを築いてほしいとの挨拶がありました。

会場内には、短期・中長期留学プログラムに参加した学生による体験報告ポスターを展示し、留学経験者は「Ask Me」のネームタグを着用することで、留学に関心を持つ学生からの質問や相談に応じるなど、活発な情報交換が行われました。

さらに、留学生 3 名が進行を担当した「出身国 Bingo」では、参加者同士が気軽に交流し、交流の輪が広がりました。会場は終始和やかな雰囲気に包まれ、相互理解を深める有意義な機会となりました。



17. 第 64 回工大祭を開催

第 64 回工大祭を、下記の日程で開催いたしました。

日　時： 11 月 14 日（土）10：00～18：30、15 日（日）10：00～18：10
テーマ：「虹彩」

参加者数：約 5800 人



2 号館前ステージ



親子向けゲームコーナー（体育館）



模擬店エリア



プロジェクションマッピング（図書館）

教員等の受賞

１．齋木悠准教授が日本機械学会熱工学部門躍進研究者表彰を受賞

受 賞 者：電気・機械工学類　齋木悠准教授（研究室 HP）（歴代受賞者）

概　　要：本賞は、熱工学分野における研究において顕著な業績を上げた研究者に授与される賞です。
本学の齋木悠准教授は、ラジカル表面反応に起因する壁面と火炎の化学的干渉機構の解明やアンモニア・水素燃焼の工業利用に関する研究において特に優れた業績をあげたことが評価され、この度の受賞にいたり、熱工学コンファレンス 2026 にて授賞式が執り行われました。



２．高須昭則教授が高分子学会三菱ケミカル賞を受賞

受 賞 者：生命・応用化学類　高須昭則教授（研究室 HP）（歴代受賞者）
概　　要：本賞は、高分子学会が授与する学術賞の一つで、高分子科学・高分子工学分野において独創的かつ優れた研究成果を挙げ、今後の発展が期待される研究者を顕彰する賞です。三菱ケミカル株式会社の支援を受けて設けられており、高分子分野における権威ある賞の一つとして位置付けられています。

受賞題目は「極性共役ジエンの重合制御による高希釈条件を必要としない種々の高分子の閉環反応の開拓」です。 従来、環状高分子の合成には極めて希薄な反応条件が必要であり、大量合成や実用化の障壁となっていました。また、ホルムズ海峡が封鎖され溶媒（ナフサ）の入手が困難な昨今、高須教授は、極性共役ジエンの精密重合によって高分子末端の反応性を高度に制御し、高希釈条件を用いずに効率的な閉環反応を実現しました。 本成果は、環状高分子や多環性高分子などのトポロジカル高分子材料の新たな設計・創製を可能にし、高機能材料分野の発展に大きく貢献するものとして高く評価されました。



３．松本良教授が日本機械学会機械材料・材料加工部門功績賞を受賞

受 賞 者：電気・機械工学類　松本良教授（研究室 HP）（歴代受賞者）
概　　要：日本機械学会機械材料・材料加工部門功績賞は、機械材料・材料加工分野に関する学術、教育、出版、内外の交流など諸般の活動において、当該部門の発展と進歩に積極的な貢献または顕著な業績のあった者に授与されるものです。
松本良教授は、塑性加工・接合に関する研究において多くの学術成果を挙げるとともに、学術誌のカテゴリエディタを務めるなど、学術・出版活動に貢献してきました。また、長年にわたり同部門の運営委員を務め、特に第 102 期（2024 年度）部門長として部門運営の中枢を担うなど、部門の発展に大きく貢献したことが評価され、受賞に至りました。

４．菅野敦史教授が OPEN Alliance 2026 Key Contributor Award を受賞

受 賞 者：電気・機械工学類　菅野敦史教授（研究室 HP、未来通信研究センターHP）
概　　要：本学の菅野教授は、車載光イーサネット技術の研究開発に取り組んでいます。この度、車載イーサネット規格団体である OPEN Alliance において、菅野教授が Editor として主導したテストハウスおよび評価手法に関する標準規格文書「Requirements for the Competence of Laboratories Testing Multi-Gigabit Optical Automotive Ethernet」への貢献を評価され、同賞の受賞に至りました。

５．加野泉准教授が 2026 年度 JSEE 研究講演会発表賞（日本工学教育協会）を受賞

受 賞 者：基礎類　加野泉准教授（研究室 HP）
概　　要：9 月に岐阜大学で開催された日本工学教育協会第 74 回年次大会・工学教育研究講演会において、本学加野泉准教授の研究発表「女性技術者リーダー育成における課題の探索的検討――養成塾参加企業の期待と受講者の動機の比較から」が、2026 年度 JSEE 研究講演会発表賞を受賞しました。

本研究では、名古屋工業大学ダイバーシティ推進センターが 2015 年から主催する「女性技術者リーダー養成塾」の 2021～2025 年度のアンケートを用い、参加企業の「養成塾に期待すること」と受講者の「参加動機」の記述回答を意味内容に基づいて分類し、比較分析しました。分析の結果、企業は受講者にロールモデルとしての役割や学びの組織への還元を期待する

一方、受講者は自らが参照できるロールモデルを求め、自分らしい将来像の模索段階にあるという非対称性を捉えました。JSEE 研究講演会発表賞は、座長による推薦および一般参加者による投票結果をもとに選考委員会で審議され授与されるもので、今大会では 207 件の発表のうち 8 件に授与されました。

６．岸本拓磨助教が JSTP International Award for Young Researchers (Altan Gold Medal)を受賞

受 賞 者：物理工学類　岸本拓磨助教（研究室 HP）

概　　要：岸本拓磨助教は、10 月 11 日～16 日に韓国・済州島で開催された「Metal Forming Olympics」とも呼ばれる The International Conference on Technology of Plasticity において研究成果を発表しました。上記題目の Proceedings と口頭発表が厳正に審査された結果，JSTP International Award for Young Researchers (Altan Gold Medal)を受賞しました。本賞は、塑性加工分野の若手研究者育成を目的とした国際賞であり、鍛造加工の世界的権威である Taylan Altan 教授が、日本塑性加工学会（The Japan Society for Technology of Plasticity, JSTP）から授与された金メダルを、次世代の研究者育成のため同学会へ寄贈したことを契機に創設されました。岸本助教は、高度な数値解析技術である結晶塑性有限要素法を用いて、金属管の引抜き加工における内面の表面あれが、外面側結晶粒の変形に支配されることを明らかにするとともに、表面あれ抑制に向けた新たな加工プロセスを提案しました。これらの研究成果が高く評価され、日本人として初めて本賞を受賞しました。

７．李子強助教が ICGBC 2026 Best Paper-Runner-up Award を受賞

受 賞 者：情報工学類　李子強（LI Ziqiang）助教（研究室 HP）

概　　要：李子強助教は、10 月 16 日から 18 日にかけて中国・重慶で開催された第 1 回国際粒球計算会議（International Conference of Granular-Ball Computing, ICGBC 2026）において、Best Paper Runner-up Award を受賞しました。
本会議には、中国、日本、シンガポール、オーストラリアなどから多くの研究者が参加し、粒球計算に関する最新の研究成果が発表されました。李助教は、Dynamic Time Warping（DTW）に基づく粒球計算を用いて、ラベルノイズを含む時系列データをより頑健かつ効率的に分類する手法を提案した研究を発表しました。この研究発表が高く評価され、Best Paper Runner-up Award を受賞しました。

８．本学技術部職員が機械工作技術研究会 交流型ものづくりコンテストにて受賞

受 賞 者：最優秀賞　　技術部技術課　技術主任　加藤嘉隆
　　新人奨励賞　技術部技術課　技術職員　中村允星

概　　要：「第 5 回機械工作技術研究会」（大阪大学会場、参加者 81 名）で開催された交流型ものづくりコンテストにおいて、本学機械工作部門の技術職員が、最優秀賞及び新人奨励賞を受賞しました。
コンテストのテーマは「閉じ込められた構造」で、全国の大学・高等専門学校から 27 作品が出展されました。参加者による投票の結果、本学の作品は柔軟な発想に基づくデザイン性、加工技術、完成に至るまでの挑戦が評価されました。



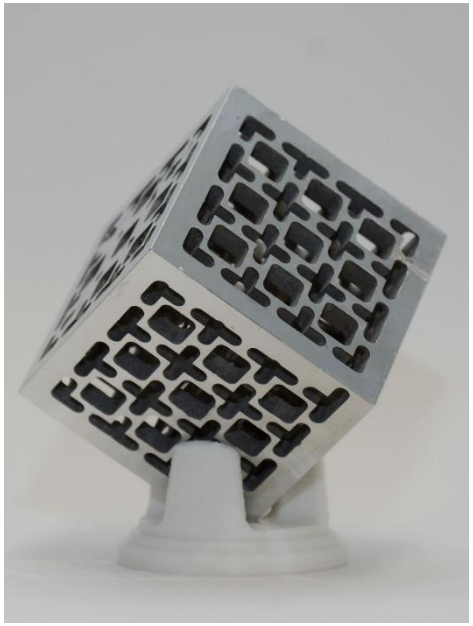
受賞挨拶をする加藤氏



加藤氏の受賞作品



受賞挨拶をする中村氏



中村氏の受賞作品

学生の受賞

１．　IEEE VTS Tokyo/Japan Chapter APWCS Young Researcher's Encouragement Award

受 賞 者：工学専攻　博士前期課程　電気電子プログラム　伊奈嵩市

受賞内容：　8 月 12 日～14 日に韓国の崇実大学（Soongsil University）で開催された IEEE VTS APWCS2026 において、研究発表「Design and Evaluation of Adaptive Handover Algorithm Based on Non-Line-of-Sight Detection for Low-Earth Orbit Satellite-Vehicle Communications」により、Young Researcher's Encouragement Award を受賞しました。本研究は、低軌道衛星と車両間の通信において、見通し外（Non-Line-of-Sight：NLOS）環境の検出に基づく適応的なハンドオーバーアルゴリズムの設計・評価に関するもので、その研究成果と発表内容が高く評価されました。



２．　日本品質管理学会第 141 回研究発表会　最優秀発表賞

受 賞 者：工学専攻　博士前期課程　経営システムプログラム　大脇崇太郎
受賞対象：「多変量 Q 管理図と比較した多変量階層ベイズ管理図の有用性評価」
受賞者の研究概要については、こちらをご覧ください。

３．第 26 回日本光生物学協会年会 日本光生物学協会ポスター賞

受 賞 者：工学専攻　博士前期課程　生命・物質化学プログラム　新井想空
同　石田大空
受賞対象：新井想空「9-cis-retinal 選択性をもたない霊長類青視物質の構造基盤解明に向けた分光研究」
石田大空「キイロショウジョウバエ Rh7 の広帯域吸収を制御するシッフ塩基周辺の分子機構」
受賞者の研究概要については、こちらをご覧ください。

４．電気学会 優秀論文発表賞

受 賞 者：工学専攻　博士前期課程　電気電子プログラム　日比勇汰
受賞対象：「制振学習制御における連成振動抑制のための学習データ要件」
受賞者の研究概要については、こちらをご覧ください。

５．第 75 回高分子学会年次大会 優秀オンデマンド発表賞

受 賞 者：工学専攻　博士前期課程　創造工学プログラム　横井佑音
受賞対象：「バイオベースモノマーを用いた高耐熱性クリックポリエステルの合成と生分解性」
受賞者の研究概要については、こちらをご覧ください。

6. 第 1 回分子科学会奨学賞 Springer-Nature Award

受 賞 者：工学専攻　博士後期課程　伊藤侑真
受賞対象：「ゼノロドプシン NsXeR に対する内向きプロトン輸送機構解明」
受賞者の研究概要については、こちらをご覧ください。

7．第 16 回企業と博士人材の交流会 プレゼン賞

受 賞 者：工学専攻　博士後期課程　伊藤侑真
受賞対象：「細胞内外の pH を光のみで操作しよう」
受賞者の研究概要については、こちらをご覧ください。

8. 生体医工学シンポジウム 2026 ベストポスターアワード

受 賞 者：工学専攻　博士前期課程　機械工学プログラム　溝口睦実
同　長瀬翔
同　南川実希
同　近藤雄大
受賞対象：溝口睦実「腹部大動脈の狭窄に対して留置するステントグラフトの径がグラフト前後圧力差に及ぼす影響」
長瀬翔「心筋細胞の膜リモデリングに伴う脂質特性変化～脂質から探るＴ管膜の維持機構～」
南川実希「大動脈壁内の間質流はどこを流れるのか？～色素・蛍光溶液を用いた顕微観察～」
近藤雄大「ヒト大動脈壁の破壊開始領域と内皮細胞分布や局所ひずみとの関係」
受賞者の研究概要については、こちらをご覧ください。

９．日本鉄鋼協会第 192 回秋季講演大会 ポスターセッション奨励賞

受 賞 者：工学専攻　博士前期課程　材料機能プログラム　松井優太朗
　　同　　服部仁志
受賞対象：松井優太朗「高強度高延性高炭素鋼における疲労亀裂発生および進展特性」
　　服部仁志「高炭素低合金鋼の高延性発現メカニズムの解明」
受賞者の研究概要については、こちらをご覧ください。

10. 第 25 回情報科学技術フォーラム FIT 奨励賞

受 賞 者：工学専攻　博士前期課程　知能情報プログラム　加藤拓弥
　　同　　中村詩織
受賞対象：加藤拓弥「記憶の在処を探す：将棋 GPT における持ち駒の線形表現分析」
　　中村詩織「口調指定下における LLM に基づく仮想アンケートの実社会データとの比較」
受賞者の研究概要については、こちらをご覧ください。

11. 日本設計工学会 学生優秀発表賞

受 賞 者：工学専攻　博士前期課程　経営システムプログラム　伊藤太一
受賞対象：「接触型三次元測定機における温度補正精度の向上と再現性の確認」
受賞者の研究概要については、こちらをご覧ください。

12. 第 55 回複素環化学討論会 BCSJ Award

受 賞 者：工学専攻　博士前期課程　生命・物質化学プログラム　岡島さゆり
受賞対象：「新規ホスフィンリガンドの開発に基づくキラル α,β-ジアミノ酸誘導体の不斉合成」
受賞者の研究概要については、こちらをご覧ください。

13. 日本経営診断学会第 59 回全国大会 大学院生一般部門 優秀賞

受 賞 者：工学専攻　博士前期課程　経営システムプログラム　山田泰雅
受賞対象：「地域支援担当者による町内会伴走型支援の課題構造　―名古屋市における地域類型別分析―」
受賞者の研究概要については、こちらをご覧ください。

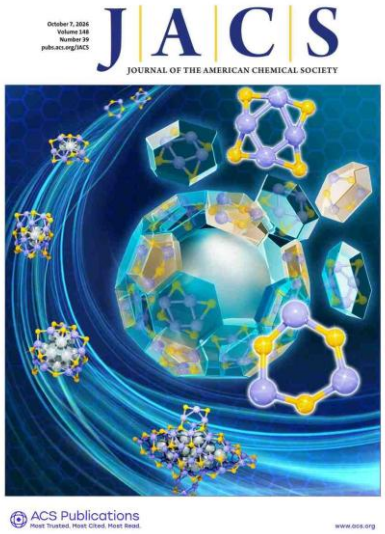
研究成果

１．白井孝教授らの研究グループによる共同研究成果が、国際学術誌「Journal of the American Chemical Society（JACS）」の Cover（表紙）に選ばれました（2026 年 7 月 20 日掲載）。

生命・応用化学類 白井孝 研究室と中国・内モンゴル大学 Prof. Dr. SHEN Hui 研究室らとの共同研究成果「Crystallographic Visualization of the Missing Structural Evolution of Copper Nanoclusters」が高く評価され、アメリカ化学会が刊行する学術誌『Journal of the American Chemical Society（JACS)』の Cover（表紙）に選ばれました。

金属ナノクラスターは、数個から数十個程度の金属原子から構成される極微小な物質であり、その原子配列や構造によって光学特性や触媒特性などが大きく変化します。中でも銅ナノクラスターは、銅の豊富な資源量や多様な電子状態に加え、触媒、光学、バイオ分野への応用が期待されています。一方、金や銀のナノクラスターでは成長に伴う構造変化の理解が進んでいるのに対し、銅ナノクラスターは不安定で、反応途中の構造を単離・結晶化することが難しいため、「小さなクラスターがどのように成長してより大きな構造になるのか」を原子レベルで明らかにすることは困難でした。

本研究では、ジスルフィドを用いて保護配位子の生成を緩やかに制御する独自の合成手法を用い、反応温度と反応時間を精密に調整することで、Cu_{12}、Cu_{23}-a、Cu_{23}-b、Cu_{25}-a、Cu_{25}-b、Cu_{61} という 6 種類の銅ナノクラスターを同一の合成系から作り分けることに成功しました。さらに、単結晶 X 線構造解析によってそれぞれの原子配列を決定し、銅ナノクラスターが小さな構造から大きな構造へと成長していく過程を原子レベルで可視化しました。 その結果、銅と硫黄からなる Cu_3S_3 六員環および Cu_4S_4 八員環が基本的な「構造ユニット（building motifs)」として働き、中心部の銅原子からなるコアの成長に応じて組み替わりながら、ナノクラスター全体の構造進化を制御していることを明らかにしました。また、同じ数の銅原子から構成されながら異なる原子配列を持つ Cu_{23} および Cu_{25} の構造異性体も確認され、表面配位構造が柔軟に変化することで内部の構造ひずみを調整していることが示されました。



本成果は、これまで十分に解明されていなかった銅ナノクラスターの構造進化を、サイズの異なる一連のクラスターを通して実験的に明らかにしたものです。得られた原子レベルでの構造形成に関する知見は、目的とする構造や機能を持つ銅ナノクラスターを合理的に設計・合成するための重要な指針となります。

今後、電子構造や表面反応場を精密に制御した新しい触媒材料や光機能材料などへの展開が期待されます。論文でも、サイズに伴う金属コアの構造変化や Cu_3S_3/Cu_4S_4 表面ユニットが、触媒設計や選択性制御につながる可能性が示されています。